

いさーち

日立市教育研究所報 283号

平成30年 2月21日発行

〒317-8601 日立市助川町1-1-1

日立市教育研究所長 勝間田 忠彦

こども発達相談センター主催

「発達障害の理解と支援のための研修会」

2月3日（土）に、市役所会議室において、筑波大学教授 柘植（つげ） 雅義先生を講師に招き、発達障害の理解と支援のための研修会を開催しました。土曜日開催にもかかわらず、134名の参加者が集まりました。

柘植先生からは、発達に課題のある子どもたちへの合理的配慮や周りの子どもへの関わり方などについて、事例や最近の教育情勢なども交えてお話をいただきました。



「発達障害のある子の理解と支援

～就学前、学齢期、そして思春期へ～」

- 1 2つの事例
- 2 発達障害のある子どもの様相と可能性
- 3 集団の中での指導と個別的な指導
- 4 家庭での関わり方と学校との連携
- 5 共に学ぶ周りの子どもへの教育



☆参加された方の感想（抜粋）☆

- 障害のある子だけでなく、その他の子どもたちの教育が大切だと知ることができました。
- 子どもが悪いなどではなく、子どもにとって良い環境を整備していけるようにしていきたいです。
- 専門的知識を難しい言葉だけでなく、分かりやすく伝えてくださいました。最新の知識をみんなで学ぶ機会はとても大切だと思います。先生の出版された本も読んでみたいと思いました。
- 子どもや保護者に寄り添っていくことは大切ですが、周りの環境が大切であることを改めて感じました。

「第3回 不登校解消支援研修会」

2月8日（木）に、NPO法人教育ステーション理事長であり、松陰高校みなとみらい学習センター代表の藤田 和宏先生を講師に招き、第3回不登校解消支援研修会を開催しました。今年度3回目となる今回は、56名の教職員が参加しました。

藤田先生からは、「不登校改善を当事者に求めない我々が変わり、保護者・生徒を変える 今日から使える8つのスキル」というテーマで、チームでの演習を交えて、具体的なお話をたくさんいただきました。また、藤田先生と一緒に不登校経験のある生徒さんも来所し、貴重な体験談を語ってれました。



☆講話内容☆

- ・児童生徒は楽しければ学校に行く。教職員みんなの力で、「学校が楽しい」と思えるような学校にすることが一番大切。
- ・第一は信頼。生徒との信頼関係を築く。そのためには、教職員間にも信頼関係がないといけない。教職員間の雰囲気は児童生徒には必ず伝わっている。
- ・教員一人の力では不登校の解決は難しい。
- ・日常生活でも「相手の目線で考える」癖をつけることで、一歩進んだ「聴く」ができるようになる。
- ・ほめ方のスキル「リフレミング」でプラスの見方をする考え方を。



☆参加された方の感想（抜粋）☆

- ・生徒さんの話が一番印象に残り、聞くことができてよかったです。個人的にはもっと話を聞いていたかったです。彼の体験を通じて、自分自身の生徒への対応を考えるきっかけになりました。藤田先生のような研修は初めてだったので、楽しく、ふむふむ、と聞くことができました。もう一度、2人の話を聞きたいと思います。
- ・子どもに対する言葉遣いで相手の受けとめ方が変わり、信頼されていくのですね。教師は、短時間で結果を求めがちですが、その気持ちを変えることの大切さを再認識しました。
- ・実際にワークショップを行うことでその良さに気付きました。今後、実践していきたいです。
- ・まず、職場改革！明日が待たれる職員室に、私ができることはまだあるぞ、と、背中を押されました。必ず実践します。

編集後記

3学期になり、研究所では2つの研修会を開催しました。どちらも多数ご参加いただき、目の前の子どもたちにできることを真剣に考えてくださっているのが伝わってきました。また、子どもに求めるだけでなく、周りの環境、我々が変わることの大切さを改めて感じました。（中村）